



## リハビリパンツの履き替え介助 ～楽に履き替えができる方法～



① リハビリパンツをあおる。



② リハビリパンツの左右のつなぎ目をやぶる。



③ 脱いでいる足側のズボンを履いている方の足側のリハビリパンツの穴に入れます。



④ ズボンを履いている足をリハビリパンツに入れる。



⑤ 一番内側にリハビリパンツがきます。



⑥ 脱いでいた片足のズボンを履いて終わりです。

はまかぜホームページ「WEB介護教室 令和3年2月号」  
に動画でも紹介しています。



## 子ども食堂について

「はまかぜ子ども食堂」は現在、休止させていただいています。その代わりとして毎月カレーやお菓子を参加していた子どもさんに配らせてもらっていました。現時点では、子ども食堂の再開のめどはたっていませんが、子どもたちと会える日を楽しみにしています。



# はまかぜ便り

令和3年春号



介護老人保健施設はまかぜ はまかぜ広報委員会 〒684-0062 鳥取県境港市蓮池町78番地1 TEL 0859-42-3190

## 新ケアセンター所長就任

鳥取県済生会地域ケアセンターに、令和3年4月1日付で佐々木祐一郎所長(済生会境港病院長)が就任しましたので、皆さまよろしくお願いします。



## ～令和3年度になりました～

新しい年度の始まりとともに、地域ケアセンターの周りも桜が満開となりました。昨年度は「新型コロナウイルス」に振り回された1年でしたが、今年度はコロナウイルスに負けないよう職員一同笑顔と元気で頑張っていきたいと思っています。

また、介護報酬改定もありますます厳しい1年になるのではないかと思います。

ご利用者様、ご家族様にはご迷惑をおかけすることもあると思いますが、今年度もよろしくお願ひいたします。



はまかぜ周辺の桜です。

# 通所

## 送迎車に車用手すりを新設いたしました。



12月、1月は、大寒波による大雪等で送迎に関するご意見を多くいただきました。その中で、車内で持つ場所を増やしてほしいとのご意見に関して車用手すりを設置いたしました。ご利用者様より「乗り降り時に楽に動作できる」「持つ場所が増え送迎中も過ごしやすくなった」等のご意見をいただきました。今後もご利用者様が快適に過ごせるよう環境の改善に努めています。

## 作業活動の一貫として鉢植えの手入れを行っています。

今は冬場、室内に取り込んでいたベコニアの枯れ葉や花がら取りなど剪定作業を利用者様と一緒に行っています。新芽が伸びきれいな花を咲かせるのを楽しみに行っています。



## 在宅生活をより安全・安心に。

今年も通所リハビリのスローガンである利用者様の「したい」「してみたい」が実現できるよう職員一同、努力してまいりますのでよろしくお願い致します。通所リハビリでは随時、「訪問指導」を行っています。リハビリスタッフがご自宅に訪問し生活動作(入浴動作や玄関の昇降等)や介助方法、福祉用具の選定・住宅改修等の助言や指導を行っています。ご自宅の環境が整うことで在宅生活がより安全・安心して継続できるよう支援しています。「私もアドバイスが欲しい」等のご希望がありましたらスタッフに気軽にお知らせくださいませ。

# 入所

入所では毎月1回行事を行っています

## はまかぜ新年会

新年を祝って新年会を開催しました。はまかぜ神社を作成し、職員が神主の格好をして祝詞を読み上げました。おみくじ(職員お手製)も引いて今年一年の運勢を占いました。その後は、福笑いをしたり、福袋をもらったりと楽しく盛り上がり新年を祝うことが出来ました!



鬼は外～!  
福は内～!



## 桃太郎で豆まき!

節分を通して季節を感じてもらうために、少し変わった方法で豆まきを行いました。職員で桃太郎の劇を行い、劇中の鬼退治の場面で利用者様と一緒に豆まきを行いました。「鬼は外!福は内!」と叫びながら白熱する豆まきになりました!おやつでは鬼にちなんで甘納豆の鬼饅頭を頂きました。



## 園芸クラブの活動

園芸クラブでは、さまざまな植物や野菜を育てています。そんな中、今回は、豆苗に挑戦しました。利用者様に水やりをしてもらい、すくすく育つことができ無事に収穫が出来ました。残念ながらコロナウイルスの影響で調理は出来ませんでしたが、給食の方にお願いしメニューに加えてもらいました。育てて収穫したものを食べることが出来て、うれしそうな笑顔が見されました。

## 入所でのコロナ対策

いまだに感染終息の目途が立たず、山陰でも感染拡大が広がっています。はまかぜ入所では新たな感染対策として、食事の配膳・食事介助の際に医療用ゴーグルを着用しています。他にも、朝、昼、夕の食後には使用された洗面台の手すり、対面防止用のアクリルボードのアルコール消毒を行っています。感染の可能性を少しでも減らし、感染が終息するまでは感染予防対策を徹底していきます。

